

映画とマインドワンダリング － 陶然と呆然のはざま － Movies and Mind Wandering - when emersion transcends into entanglement -

原田 康也
Yasunari HARADA

早稲田大学名誉教授・言語情報研究所
Institute for the Study of Language and Information, Waseda University
harada@waseda.jp

Abstract

映画を見ているときに映画の内容・物語に引き込まれて陶然と没入しているかと思うと、無関係なことに気を取られていることに気が付いて愕然とすることもあり、思考が脈絡なくあちこちに散乱すること多い。どのような傾向の映画を見ているときにマインドワンダリングに近い状態に達することがあるか、筆者の個人的な映画視聴体験を振り返りつつ、いくつかの傾向を返ってみることとする。

Keywords — マインドワンダリング・デフォルトモード・没入・映画視聴体験

1. はじめに

映画館の暗闇の中で上映作品を見ていると、そのストーリー展開に引き込まれたり、アクションに夢中になったり、謎解きに当た前尾巡らせたり、映像や音響の美しさに陶然となって我を忘れている瞬間がある。一方で、登場人物に感情移入できず、ストーリーの前提を了解できず、退屈して時間を持て余すことがある。ここでは、そのようにして映画館にて、あるいは映画の使用において引き込まれる無私の境地について、どのような要因が考えられるかを検討してみることとする。合わせて、映画があまりにも長く、あるいはつまらなくて呆然となることもあるが、マインドワンダリングにおいて陶然と呆然のどちらが意味があるかを考えてみるのも面白いかもしれない。

映画のストーリーや映像・音響に引き込まれていると、そこから外れた散漫な思考には至らないことからすると、マインドワンダリングにいたるのはむしろ没入しないで呆然としている時なのかもしれない。池袋文芸座でのソ連戦争映画終夜上映などが典型的な例かもしれない。タルコフスキーなどは没入と呆然の境界線かもしれない。

2. 筆者の映画視聴体験

映画館における映画視聴は、筆者の数年前の世代には「チャンバラ映画」の全盛期であったが、テレビ放送が始まり一般家庭にも白黒テレビが普及したこともあって、筆者が小学生のころ(1960年代)は年に数度怪獣映画・特撮映画を見る程度であったが、中学生・高校生のころにはSF・怪奇作品を中心に折に触れていわゆる洋画を見るようになった。学部・修士課程のころ(1970年代)はロードショー公開や名

画座での二本立てなどを中心に年30回から50回程度、博士課程から専任教員になるころ(1980年代)までは名画座・アートシアター系・フィルムセンター・アテネフランセ・日仏学院・イタリア文化会館などを含めて年間300から500作品を視聴していた時期もあるが、その後は本業が忙しく思うように映画を見ることができず、1990年代以降は海外出張や在外研究の折にパリのボンピドーセンターの Cinemateque Franceais や街中の映画館、Palo Alto の Stanford Theater や Menlo Parc そのほかの AMC系列館などで見ることも多くなったが、2005年以降はそうした機会も少なくなってしまった。

上記の映画視聴は基本的に映画館などにおけるフィルム作品のスクリーン上映であり、ビデオやDVD・BDやストリーミングなどの視聴は含まない。映像視聴の経験としてどちらがすぐれているかは微妙なところもあり、1920年代の作品をなんども複写したフランス語作品の 8 mm フィルムの下半分にオランダ語と英語字幕が入り、日本語字幕が縦に入っていたりするのは映画を見た気持にもならないことがあるが、自分で一時停止・早送りなどの操作が可能であるか、原則として不可能であるかというのは、本稿の内容との関連において映画視聴体験として極めて重要な要素だと考えている。

3. アクション・音楽に引き込まれる映画

アクション・特撮など、動きの激しい視覚効果を多用した画面では画面を追いかけることに無夢になりがちだが、ストーリー展開上、動きが比較的静かになる場面もある。そうした場面で、映画とは無関係な事柄に気を取られてしまうことも多い。Jesus Christ Super Star / Saturday Night Fever / GREASE / グリース 1978 / Phantom of the Paradise / Rocky Horror Picture Show / Beauty and the Beast / Frozen

4. 画面展開に引き込まれる映画

映像作家タルコフスキーは静謐な長いシーンの積み重ねが特徴だが「惑星ソラリス」や「スターカー」を見ていると、ストーリー展開に集中している自分と集中しきれずに何かを考え始める自分を感じることもある。同じく、短いショットの積み重ねより長いシーンの積み重ねが印象的なStanley Kubrick 監督の 2001 年宇宙の旅は科学的知見に忠実であることを目指している一方、あるところから写實的でない映像や幻想的な

情景の描写が続く。さまざまなシーンは比較的固定されたアングルでの映像が長い時間続くことが多く、画面に引き込まれているとふと予想外の思考の経緯をたどっている自分に気が付くことも多い。内容的にはもっとショッキングな展開を含む「シャイニング」でも、空撮や模型の長いシーンも含め、被写体を固定したりアングルを固定した長い場面が多く、一方で非現実的な描写の場面が挟み込まれる中で、さまざまな思念が誘発される場合もある。「博士の異常な愛情 または私は如何にして心配するのを止めて水爆を愛するようになったか」でも爆撃機内の描写とその飛行を示す映像も多く、背景の “When Jonny comes marching home” のドラマと合わせて意識を失いそうになる場面も多い。

5. 思弁的小道具をちりばめた映像作品

「スキャナーズ」・「ブルーード」・「ラビッド」・「ビデオドローム」・「フライ」などで知られるカナダ出身の映像作家 David Cronenberg の作品は Body Horror の名作として知られる、内容的に観客を選ぶところもあるが、見かけのグロテスク差を超えて登場人物の心理描写に目を向けると、その血まみれの肉体が美しく見えることもある。苦悩する主人公・怪しげな科学者である父親・正義と悪との対立などの物語の古典的な要素を軸に、初見では理解しがたいほど複雑なプロット・いつの間に仕掛けられたかわからない伏線の回収・社会的事象への緩やかな言及とそれを示すわかりにくい名称などが頻出し、視聴時にはストーリーを追いかけるだけで精一杯となりそうになるが、その中に「宝石箱をひっくり返したかのようにちりばめられた思弁的小道具」が頻出し、その一つ一つについて思考が脱線してしまうことが多い。

6. ロシアの歴史映画・ソ連の戦争映画

ロシアの歴史を解雇する映画としては英全種テインの「アレクサンドル・ネフスキー」や「イワン雷帝」などよく知られた作品も多いが、一般に長く退屈である。ソ連の戦争映画には『ヨーロッパの解放』や『ベルリン陥落』など対独戦を中心に第二次世界大戦の戦闘を描いた作品も多いがこれまた長く、特に『ヨーロッパの解放』は上映時間が合計で7時間48分ということで見ているだけでまる一日（あるいは一晩朝まで）かかってしまうため、字幕を追いかける疲労感・延々と続く戦闘描写など、寝落ちも含めて意識を失わずに見通すことは難しい。

7. 映像美に耽溺する映画

「世界のすべての記憶」はアーン・レネ監督による白黒作品で、「去年マリエンバードにて」と比べてもさらに物語性の低い映像作品であるが、トラベリングによる撮影を見ると、その美しさに引き込まれるところがあり、この慶賀を見たときになぜ自転車による異同が心地よいのかというところに突然納得した記憶がある。ドキュメンタリー映画「コヤニスカッツィ」など、物語的であることを目指さない作品も

あるが、「アルタード・ステーツ」・「武衛至レインストーム」・「サンタ・サングレ」・『アギーレ/神の怒り』などストーリー展開の中で、部分的に超常的体験・臨死体験・宗教的体験などを描く映像に耽溺する作品もある。The Cell (2000) はその一部に圧倒的な視覚的歓喜に満ちた幻想描写部分があるが、全体としては猟奇的犯罪者の行為の描写と動機の解明をストーリー展開の主軸としているため、その視覚的世界に耽溺することはできず、視聴経験はきわめて限定的にならざるを得ない。「サンタ・サングレ」は主人公の動作と舞台装置の美しさに圧倒されるが、物語の原点には生々しい部分も強く、どこまで没入できるかは観客の感受性によるかもしれない。「バベットの晩餐会」は比較的わかりやすいストーリー展開の上に片田舎の漁村の村人に提供する晩さん会の食事がクライマックスとなるが、その料理の食材の準備と調理と最終的な食事の後継だけで視覚的に圧倒される。

謝辞・注記

本稿の執筆ならびに本 organized session の企画と開催に当たって、著者並びにオーガナイザーたちは以下の科研費等の支援を受けている。

- 科研費基盤研究(B):研究課題/領域番号23H03649「森林浴の癒やし効果を活用した観光資源開発支援: COVID-19後に楽しく観光するために」(研究代表者:伊藤 藤)

参照映像作品

* online 情報については原則として2023/07/14 に最終アクセス。

1. Jesus Christ Super Star /
2. Saturday Night Fever
3. GREASE / グリース 1978
4. Phantom of the Paradise /
5. Rocky Horror Picture Show
6. Beauty and the Beast
7. Frozen
8. 1972 ソラリス Solzaris Andrei Tarkovsky
<https://www.imdb.com/title/tt0069293/>
9. 1979 Stalker ストーカー Andrei Tarkovsky
<https://www.imdb.com/title/tt0079944/>
10. 1954 Dr. Strangelove or: How I Learned to Stop Worrying and Love the Bomb 博士の異常な愛情 または私は如何にして心配するのを止めて水爆を愛するようになったか Stanley Kubrick
<https://www.imdb.com/title/tt0057012/>
11. 1968 2001: A Space Odyssey 2001年宇宙の旅 Stanley Kubrick
<https://www.imdb.com/title/tt0062622/>
12. 1977 Rabid [ラビッド](#) David Cronenberg
<https://www.imdb.com/title/tt0120907/>
13. 1981 Scanners [スキャナーズ](#) David Cronenberg
<https://www.imdb.com/title/tt0081455/>

14. 1979 [ザ・ブルード/怒りのメタファー](#) David Cronenberg
<https://www.imdb.com/title/tt0078908/>
15. 1983 *Videodrome* [ヴィデオドROOM](#) David Cronenberg
<https://www.imdb.com/title/tt0086541/>
16. 1986 *The Fly* [ザ・フライ](#) David Cronenberg
<https://www.imdb.com/title/tt0091064/>
17. 1988 *Dead Ringers* [戦慄の絆](#) David Cronenberg
<https://www.imdb.com/title/tt0094964/>
18. 1991 *Naked Lunch* [裸のランチ](#) David Cronenberg
<https://www.imdb.com/title/tt0102511/>
19. 1999 *ExistenzeXistenZ* [イグジステンズ](#)
<https://www.imdb.com/title/tt0120907/>
20. 1938 *Alexander Nevsky*『アレクサンドル・ネフスキー』セルゲーイ・ミハーイロヴィチ・エイゼンシュターイン
<https://www.imdb.com/title/tt0029850/>
21. 1944-46 *Ivan Groznyy* y『イワン雷帝』セルゲーイ・ミハーイロヴィチ・エイゼンシュターイン
<https://www.imdb.com/title/tt0037824/>
<https://www.imdb.com/title/tt0051790/>
22. 1961 : *L'Année dernière à Marienbad*『去年マリエンバートで』
<https://www.imdb.com/title/tt0054632/>
23. 1956 *Toute la mémoire du monde*『世界のすべての記憶』Alain Resnais
<https://www.imdb.com/title/tt0049869/>
24. 1972 *Aguirre, der Zorn Gottes*『アギーレ/神の怒り』Werner Herzog
<https://www.imdb.com/title/tt0068182/>
25. 2000 *The Cell*: 『ザ・セル』Tarsem Singh
<https://www.imdb.com/title/tt0209958/>
26. 1982 *Koyaanisqatsi*『コヤニスカツィ/平衡を失った世界』Godfrey Reggio
27. 1989 *Santa Sangre*『サンタ・サングレ/聖なる血』Alejandro Jodorowsky
<https://www.imdb.com/title/tt0098253/>
28. Visually Stunning Films You've Never Seen
<https://www.youtube.com/watch?v=sEpbUUvkANI>
29. Psilocybin Rewired Our Brains! The default mode network shuts down.
<https://www.facebook.com/reel/912443928045531>
30. 18 Most Unique Filming Locations
<https://www.facebook.com/reel/1454504926241899>
31. Default Mode Network
<https://www.youtube.com/watch?v=jE1j5Om7g0U&list=PLGZ-qBcM2T2aFNj6-YWEuPUPyr1B9lsv>
32. 2-Minute Neuroscience: Default Mode Network
<https://www.youtube.com/watch?v=YV3QuF>

-2wdw

33. 723 views 6 months ago #neuroscience #dmn #defaultmodenetwork
<https://www.youtube.com/watch?v=DotpgnDtIek>
34. Can't Switch Off? The Secret Brain Circuit Behind Overthinking
<https://www.youtube.com/watch?v=JWpxyc6iKQ>
35. What Your Brain Is Really Doing When You're Doing 'Nothing'
<https://www.youtube.com/watch?v=yESSv7OgCv0>
36. The Default Mode Network and Overthinking
<https://www.youtube.com/shorts/Nx9VMGI35vc>
- 37.

参考文献等

1. *The Shape of Rage: The films of David Cronenberg: Piers Handling* (editor), *Academy Of Canadian Cinema (Other Contributor)* January 1, 1983
2. 村井裕,「クローネンバーグはやっぱディックしている」,『映画の見方が変わる本』,別冊宝島100号, pp. 90-93, JICC 出版局, 1989年9月10日.
3. 村井裕,「クローネンバーグの中絶性交」,月刊イメージフォーラム, No.8, Vol 8, pp. 116-121, ダグレオ出版, 1987年7月1日.
4. 鼎談「一見もの静かな普通の人、クローネンバーグはただものではない」, 映画『デッドゾーン』解説パンフレット, pp.2-7, ユーロスペース, 1987年6月6日.